

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 1 日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530299

研究課題名（和文） 金融危機のマクロ動学理論研究－所得分配、負債加重、金融資産の視点から－

研究課題名（英文） Study on the Macrodynamics of Financial Crisis: From the Point of View of Income Distribution, Debt Burden, and Financial Assets

研究代表者

二宮 健史郎 (NINOMIYA KENSHIRO)

滋賀大学・経済学部・教授

研究者番号：30273395

研究成果の概要（和文）：本研究では、所得分配、負債加重、金融資産の視点から金融の不安定性を検討し、安定的な金融構造の重要性を強調した。1990年代半ばに我が国の金融構造が脆弱化し、逆に、アジアの通貨危機後、韓国の金融構造が安定化したことを、VARモデルを用いて示した。そして、金融資産の蓄積が経済を不安定化させること、金融構造が既に安定的である場合に、日本的な Profit Sharing ルールが経済を安定化させることなどを理論的に明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This research examined financial instability from the point of view of income distribution, debt burden, and financial assets, and emphasized the importance of the stable financial structure. This research presented that the Japanese financial structure has become fragile since the mid-1990s and the Korean financial structure has become robust since the Asian monetary crisis by using a VAR model. This research also demonstrated that the stock of financial assets makes an economy unstable, and the Profit-Sharing rule in Japan further stabilizes the economy when the financial structure of the economy is already stable.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学、財政学・金融論

キーワード：金融の不安定性、Profit Sharing、負債、金融資産、確信の不安定性

1. 研究開始当初の背景

サブプライム問題に端を発した金融危機により、世界経済の不透明性は一層深まってい

る。このような中、Minsky(1975)(1982)(1986)により提唱された金融不安定性仮説はにわかには注目を集めた(Lahart(2007),二宮(2007d))。

Minsky は、複雑な金融システムを持つ資本主義経済は内在的に不安定であるという金融不安定性仮説を提示した。Minsky は、金融危機の主たる要因として金融構造の変化を指摘している。

つまり、金融構造の変化が利潤率と利子率の動きを逆転させ、利潤率が上昇する好況局面において利子率の下落する時期が存在し、逆に好況の末期には利潤率の下落に対して利子率が上昇するということである。

Profit-Sharing ルールは、労使協調的な雇用慣行と関連して、日本経済の強さを示す一つの根拠とされてきた。しかしながら、バブル経済崩壊後の長期不況という現実は、その考え方に疑問をなげかけた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、所得分配、金融資産、負債等の観点を考慮した閉鎖体系、開放体系の金融不安定性のマクロ動学モデルを構築し、金融危機(金融の不安定性、循環)を考察することにある。そして、Profit Sharing ルール等が金融危機(金融の不安定性)の回避、鎮静化に効果を持つかを検討した。

3. 研究の方法

所得分配、負債荷重の動態、金融資産の蓄積等の観点を導入した閉鎖体系、開放体系の金融不安定性のマクロ動学モデルを構築し、非線形経済動学(Non Linear Economics Dynamics)の手法を用いて分析した。さらに、Mathematica を利用した数値シミュレーションによって閉軌道の存在例を示し、経済の循環を論じた。

また、複占(寡占)経済において、Profit Sharing ルールが採用される条件を Observable Delay Game の概念を用いて検討し、マクロ動学モデルのミクロ経済学的基礎付けを行った。ミクロ経済学的基礎付けは、高見教授(大

分大学)が担当した。

さらに、「確信の不安定性」という概念を導入してそれを定量化し、構造 VAR モデルを適用して日本、及び韓国において金融構造の変化を実証的に示した。実証分析は、得田准教授(滋賀大学)が行った。

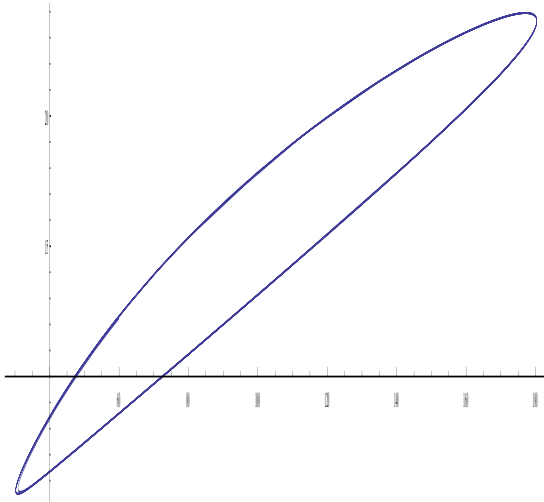
4. 研究成果

(1) 家計の資産選択における相対的危険回避度の議論を考慮した簡単な寡占経済(短期)における金融不安定性のマクロ動学モデルを構築し、金融の不安定性を検討した。相対的危険回避度減少でその程度が大きい場合には、動学体系(経済)が不安定となることを示した。(論文⑥)

(2) 金融不安定性のマクロ動学モデルに Profit Sharing ルール等を導入し、Profit Sharing ルール等が経済を安定化させる効果があるか否かを検討した(論文④⑦⑧)。論文⑧では、負債の動態を考慮して検討を行った。論文⑦では、我が国における「春闘」を念頭に置き、逐次手番のモデルにおいて、Profit Sharing ルールを採用される条件を明らかにした。日本的 Profit Sharing ルールが経済を安定化させるためには、金融構造が安定的であることが重要であることなどを示した。

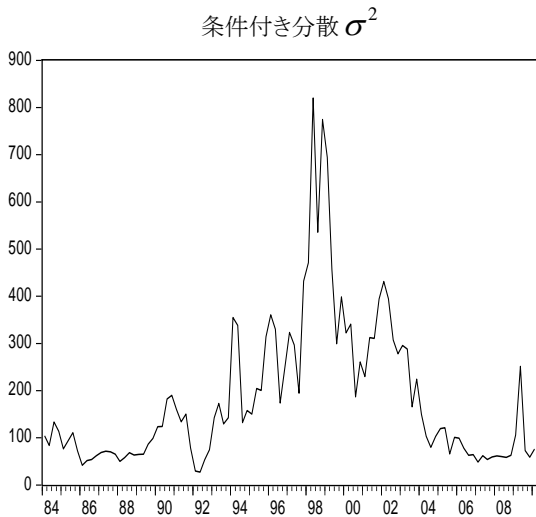
(3) 「確信の不安定性」という概念を導入した金融不安定性のマクロ動学モデルを構築し、経済の不安定性、循環を検討した。そして、それを定量化し、構造 VAR モデルを適用して 1990 年代半ばに我が国の金融構造が脆弱化したことを実証的に示した。図 3 の上の図が安定的、下の図が不安定的であることを示している(論文③)。

図1 経済の循環(数値シミュレーション)



縦軸は利子率、横軸は所得
出所 二宮・得田(2011b)

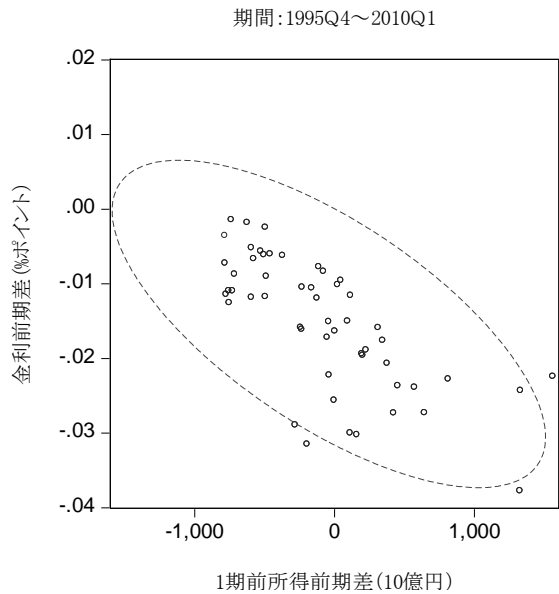
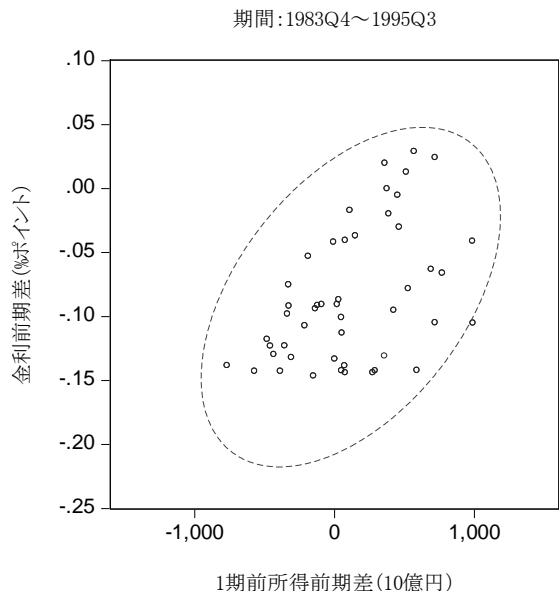
図2 確信の不安定性



※数値が大きくなるほど、確信の不安定性が大きくなることを意味する。

出所:二宮・得田(2011b)

図3 我が国における金融構造の変化



出所 二宮・得田(2011b)

さらに、モデルを開放体系に拡張し、韓国の金融構造が通貨危機後に安定化していることを実証的に示した。そして、安定的な金融構造と変動為替相場制が「確信の不安定性」の高まりにも関わらず、経済を不安定化させないということを理論的に明らかにした(論文①)。

(4) ポスト・ケインズ派金融不安定性分析の位置づけと評価を行った(論文⑤)。そして、本研究課題による成果を受け、それらの諸研究の総括として、ポスト・ケインズ派金融不安定性分析の射程と可能性を検討した(論文②)。SFC(ストック・フロー・コンシステント)モデルの可能性、計量経済学的手法に基づく実証分析の促進、供給面の重視等を指摘した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

- ① Ninomiya, K. and M. Tokuda “Structural Change and Financial Instability in an Open Economy,” *Korea and the World Economy*, 13(1) 査読有, 2012, pp.1-37.
- ② 二宮健史郎 「ポスト・ケインズ派金融不安定性分析の射程と可能性」『彦根論叢』第 390 号、査読無、2011a、pp.148-161.
- ③ 二宮健史郎・得田雅章 「構造変化と金融の不安定性」『季刊・経済理論』第 48 巻第 2 号、査読有、2011b、pp.81-95.
- ④ 二宮健史郎・高見博之 「Profit Sharing, 停滞レジームと金融の不安定性」『季刊・経済理論』第 47 巻第 3 号、査読有、2010a、pp.58-66.
- ⑤ 二宮健史郎 「「長期」と「短期」のマクロ経済モデルと金融の不安定性—ポスト・ケインズ派金融不安定性分析の位置づけと評価」『季刊・経済理論』第 46 巻第 4 号、招待論文(査読無)、2010b、pp.25-33.
- ⑥ 二宮健史郎 「負債加重、金融資産、及び金融の不安定性」『季刊・経済理論』第 46 巻第 2 号、査読有、2009a、pp.51-57.
- ⑦ Ninomiya, K. and H. Takami, “Profit Sharing, Labour Share, and Financial Instability,” *CRR Discussion Paper*, B-5, Faculty of Economics, Shiga University, 2012. 査読無
- ⑧ Ninomiya, K. “Debt Burden, Investment and Profit Sharing, *Working Paper*, No.118, Faculty of Economics, Shiga University, 2009b. 査読無

[学会発表] (計 1 件)

- ① 二宮健史郎・得田雅章 “Structural Change and Financial Instability in an Open Economy,” 経済理論学会第 59 回大会(立教大学), 2011.9.16

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

<http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/sensei/k-nino/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

二宮 健史郎 (NINOMIYA KENSHIRO)

滋賀大学・経済学部・教授

研究者番号：30273395

(2) 研究分担者

高見 博之 (TAKAMI HIROYUKI)

大分大学・経済学部・教授

研究者番号：10264326